

COC 事業先行事例視察報告書（第 2 回 岩手大学）

【岩手大学COC事業名】『“いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクト』

【訪問日】平成 26 年 10 月 10 日（金）

【訪問先】岩手大学教育推進機構内 学生センターA 棟 3 階 COC 推進室

【岩手大学対応者】

丸山 仁 教授 教育・学生担当理事・副学長、COC 推進委員長
脇野 博 教授 教育推進機構教授、COC 推進室長
江本 理恵 准教授 教育推進機構准教授、COC 推進室員
山崎 義夫 氏 学務部教務企画課長、COC 推進室員
早川 浩之 氏 地域連携推進機構 地域連携推進課長
千田 祥子 氏 COC プロジェクトマネージャー、COC 推進室員（教育推進機構）
寿 千佳 氏 COC プロジェクト事務補佐員、COC 推進室員（教育推進機構）

【本学訪問者】

齋藤 平 教授 (COC 事業担当者・教育開発センター長)
笠原正嗣 教授 (COC 担当教員)
筒井琢磨 教授 (COC 担当教員)
木村成吾 企画部長 (COC 事務担当者)
橋本 久 地域連携担当課長 (COC 事務担当者)

【当日視察内容】9：30～12：00

岩手大学の取組概要説明の後以下の点についてご説明いただきました。

ア) 地域への地元定着の取組内容

「いわて学」の内容

体験的な学修

雇用機会の開発

産業創出

イ) 1 年間の「被災地学修」の取組での成果、課題と対策の方法

ウ) カリキュラムの運用で受講生を多くするためになされている工夫

エ) 地域へ学生を派遣したときの授業の代替方法（補講など）

オ) COC 事業のための組織（部局）

>地域の教育力を活用し、自治体から「共同研究員」の受入れを実施。

(1) 岩手大学の概要

4 学部（人文社会科学部、教育学部、工学部、農学部）

学生数 約 6000 名

教員数 約 420 名

職員数 約 300 名

COC 事業先行事例視察報告書（第 2 回 岩手大学）

(2) 『“いわて協創人材育成＋地元定着” プロジェクト』の教育面の取組

	1 年次	2 年次	3～4 年次
全学共通教育	<p>「震災復興に関する学修」(春学期)</p> <p>＊基礎ゼミに位置付けて地域学修の動機付けを図る。必修化。</p> <p>＊被災圏である三陸・岩手の現状・課題、地域の歴史・文化・特色等を学ぶ</p>	<p>「地域に関する入門的な科目」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわて学 ・地場産業・企業論 ・復興学 ・ボランティア論 ・地域防災学 ・宮沢賢治、石川啄木、平泉 	<p>「地域課題をテーマとしたPBL科目」</p> <p>＊学部の枠を越えてチームを結成、それぞれ自分の専門分野から課題へアプローチ</p> <p>＊自治体・企業が講師・アドバイザーとして参画</p> <p>「インターンシップの拡充」</p> <p>＊インターンシップを通じて地域の企業等の特色を理解する。</p>
専門科目	<p>「専門と地域貢献の関連性(概論)」「地域をテーマ・フィールドとした科目」「地域課題をテーマとした卒業研究」</p>		

＊オール岩大パワーをスローガンにした取組。

＊既存科目の位置づけ直しを図る。

＊地域の教育力を活用……共同研究員の受入れと連動する。

＊専門科目との関係は各学科の概論科目で取扱う。

＊被災地見学时、バスチャーター。

被災地での説明者は担当候補者リストをもとに交渉して決定。自治体によって温度差がある。

実施後のアンケート、引率教員の分の回収率低い(学内教員の温度差)。

＊「震災復興に関する科目」(必修)・「地域に関する入門的な科目」から3科目を履修する。

＊従来型(就労体験)インターンシップとPBL型(商品開発等課題解決型)インターンシップ

COC型インターンシップ:受け入れ先事業所への丁寧な説明が必要(特任教員)。既存教員の意欲は高くない。特任教員2名による学生向け・教員向けPBL説明。

※初年次自由ゼミナール

◎「後藤厚子(特任教員)」の授業例

【キーワード】地域、人口減少社会、生活のゆたかさ、地域活性化、子育て支援、グループワーク(PBL)

【授業の目的】〔テーマ〕いわての「暮らし」を考える

この講義では、経済学的な観点から「生活」分析の理論的枠組みについて、基礎的な理解を図る。さらに、経済発展と地域社会における生活の変化との関わりについて把握しながら、「生活のゆたかさ」とは何かについて考える。また、盛岡市内の諸団体(企業・NPO等)の取組について、少人数グループ毎にアンケート調査等を実施する。グループワークにより、調査結果に基づいた課題の整理と成果発表、その振り返りを通じて、地域課題の解決に取り組む学生の主体性やコミュニケーション能力の涵養を目指す。

【到達目標】＊経済発展と生活の変化との関わりを、経済学的な視点から把握する。

＊グループワークを通じて、主体的に授業に参加し、課題を自ら見出す力を身に付ける。

＊いわての暮らしにかかわる諸問題を多様な視点から把握し、中心市街地活性化や子育て支援に関する課題を整理し、成果発表と振り返りを行う。

COC 事業先行事例視察報告書（第 2 回 岩手大学）

【授業の概要】日本における戦後の急速な経済成長が、私たちの暮らしと地域社会にどのような変化をもたらしてきたのかについて、経済学の視点から理解する。さらに、少子高齢化による人口減少社会の到来が、私たちの身近な暮らしに与える影響を具体的に把握するため、盛岡市内の諸団体（企業・NPO）による中心市街地活性化や子育て支援に関する取組事例を取り上げる。少人数毎にテーマを選び、授業内で 4 回程度、上記いずれかの取組に参加し、選択したテーマに関するアンケート調査等を実施する。こうしたグループワークによる課題の整理と成果発表を通じて、学生自らが問題意識を深め、主体的に考えることを促す。

◎遠藤雅子（特任教員）の授業例

【キーワード】地域、PBL

【授業の目的】この講義では、被災地学修の体験を踏まえ、岩手県の地理・文化・歴史・産業に対して自ら学ぶ意欲を醸成し、地域課題解決のための社会的教養を身につけ、演習等を通じて他者と関わる力（聴く力、話す力）を高める。

【到達目標】①様々な考え方を獲得し、「自己に気づく力」「社会と関わる力」、変化する社会の中で主体的に生きるために必要な「変化対応力」を発展させることを目指す。②グループワークにおける役割遂行および課題の発表を通して、地域で貢献できる人材像に関する理解を深め、自分自身が目指す姿を実現するための基礎を育む。

【授業の概要】授業は、産業社会学を基に産業・職業に関して講義を行い、実習前にはビジネスマナーの演習も行う。実習は、特定非営利活動法人未来図書館にてグループワークを行う。街づくりや地域の社会課題に取り組む市民活動に関する理解を深め、未来図書館のミッションである「こどもと社会をつなぐ」活動に、学生の力を活かす方策を考える。グループ毎に企画立案に取り組み、未来図書館主催イベントに参加する形で、成果を発表する。一部時間外に活動が及び場合には、所定の授業時間に振替える。

【成績評価の方法と基準】

評価方法	割合	評価観点			
		関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
平常点	40%	10	10	10	10
課題	60%	15	15	15	15

◎廣田純一氏の授業例

【キーワード】東日本大震災、震災復興、復興支援、コミュニティ再生、地域振興、移住

※いわて学 前期『三陸から知るいわて～いわての復興を考える』

土曜開講、場所（アイーナ 803、マリオス 188、県立博物館等）

回	テーマ・内容	講師
1・2	授業概要説明	岩手県立大学 豊島正幸
3・4	自然から知る三陸いわて ペルー・アンデスの大災害で考える共生のかたち	岩手県立大学 豊島正幸 フリーライター 高橋正也
5・6・7	歴史から知る三陸いわて	盛岡大学 熊谷 常正
8・9	博物館から知る三陸いわて	岩手県立博物館学芸員

COC 事業先行事例視察報告書（第 2 回 岩手大学）

10～13	(1泊2日) 現地で知る三陸いわて	(宮古周辺)
14・15	東日本大震災津波からの復興に向けて グループワーク (まとめ)	岩手県復興局 森 達也

後期『平泉から知るいわて～いわての復興を考える』

回	テーマ・内容	講師
1・2	授業概要説明	岩手県立大学 豊島正幸
3・4	平泉から知る岩手の歴史	盛岡大学 熊谷 常正
5・6	平泉から知るいわての資源 (漆) 平泉での現地講義に向けて	浄法寺漆産業 松沢 卓生 盛岡大学 熊谷 常正
7・8・9	平泉現地講義	熊谷 常正・豊島 正幸
10・11	志波城古代公園・盛岡市遺跡の学び館 現地講義	盛岡市教育委員会 今野 公顕
12	世界遺産と三陸復興 (1)	大槌町教育委員会 佐々木 健
13	世界遺産と三陸復興 (2)	釜石市教育委員会 森 一欽
14・15	平泉の情報発信と地域振興 グループワーク (まとめ)	岩手県南広域振興局 筒井 則裕

* 〈いわて高等教育コンソーシアム〉の共通授業として、岩手県立大学を中心に実施している。

⇒ 本学の取り組みとして考えた場合、学修者にとっての学修効果の観点から、中心的な科目 (である「いわて学」) がオムニバス形式、内容も非網羅的・非体系的なものでよいのか。講義担当者の継続性に不安はないか。地域を考える上で、経済・産業分野、行政分野が不足してはいないか。

※「ボランティアとリーダーシップ」(前期・集中) / 土曜開講

回	テーマ・内容	講師
1・2	コミュニケーショントレーニング	長崎県立大学 西村 千尋
3・4	グループワーク	鹿児島大学 肥後 祥治
5・6	リーダーシップとボランティア	四天王寺大学 吉田祐一郎
7・8	高度情報化とボランティア	電気通信大学 山本佳世子
9・10	絆・仲間作り	上越教育大学 田島 弘司
11・12	組織マネジメント	中京大学 宮川 正裕
13・14	ソーシャルビジネス	京都産業大学 大室 悦賀
15	振り返り：グループワーク	岩手大学 後藤 尚人

※「危機管理と復興」(後期・集中) / 土曜開講

回	テーマ・内容	講師
1・2	オリエンテーション	岩手大学 江本 理恵
3・4	防災教育	関西大学 城下 英行
5・6	災害カウンセリング	広島国際大学 鶴田 一郎
7・8	都市防災	名古屋産業大学 和泉 潤
9・10	心理的応急処置 (サイコロジカル・ファーストエイド)	国立精神・神経医療研究センター 研究員 大沼 麻美 / アメリカズ (米国 NPO) 佐藤麻衣子
11・12	危機管理	名古屋大学 村田 静昭
13・14	地域コミュニティ再生	東京都市大学 室田 昌子
15	振り返り：グループワーク	岩手大学 後藤 尚人

⇒ 他大学教員によるオムニバス講義

※「地域課題をテーマとしたPBL科目」

高年次の教養教育「高年次課題科目」として平成 19 年度に現代GPで立ち上げた科目。地域の課題解決を行うPBL型科目としての位置付け。

男女共同参画 / 都市の自然再生 / 北上川流域学習 / 津波防災 / 環境都市盛岡づくり / 社会の中の法律問題 / 日本の文化・社会と国際ボランティア / 異文化理解と実践 /

COC 事業先行事例視察報告書（第 2 回 岩手大学）

特別講義Ⅰ平成 23 年度より「盛岡」をテーマに開講→東日本大震災・津波発生→「盛岡」＋「被災地支援」で開講。被災地支援ボランティア活動を義務付け。もりおか復興支援センター（一般社団法人 SAVE IWATE）と連携。

⇒COC採択により、以下の授業構成で試行開講

- ・講義（SAVE IWATE 支援活動、被災地の課題、これから必要な支援活動、防災に関する基本的な知識）＊毎回ミニレポートを作成
- ・クラス内ワークショップ（SAVE IWATE のスタッフがファシリテーターとして協力）
（被災者、支援者が抱えている課題／学生の立場でできるこれからの支援活動）
- ・学内外での具体的な支援活動
（沿岸視察／内陸非難児童生徒の学習支援／内陸避難者サロン活動支援／内陸避難者支援活動／支援活動体験）
- ・グループ単位での振り返りとまとめ&発表
- ・個人によるレポート作成

※履修者数 46 名（うち 4 名途中放棄）

履修者内訳（人文 11 名／教育 1 名／工 26 名／農 2 名）

＊工が多いのは全学共通教育単位不足に学生と思われる。

⇒実施した結果・・・

- ・授業数が減少：担当教員に負担がかかる（2 回×5 グループで 10 回の活動）
- ・受け入れ先の負担がかかる：講義、ワークショップ（10 回）
- ・学外での活動：「体験」で終わった。もっとじっくり活動させるには受け入れ先の負担が増す。
- ・学生の履修動機の問題、クラスサイズの問題、活動にかかる費用の問題。組織的に PBL 科目を実施するためには、これらの問題に対する組織的な支援体制構築が必要。また PBL 科目を単なる「体験」ではなく「授業科目」として成立させるためには、科目全体のデザインが重要であると考えているが、そのデザインのあり方についても研究が必要。

⇒COCの取り組みを教科に取り組みむことを検討中。

これまでの活動を支えてくださった地域企業や団体とのパイプ構築強化要。個別企業訪問等パイプ作り（特任教員）。

地域への人材定着の課題：地域の中小企業は大卒の採用に消極的。

(3) 自治体との連携

○これまで 22 市町村と共同研究を実施

○岩手県沿岸市町村復興期成同盟会（13 市町村）との連携・協力

○6 市（久慈市、八幡平市、盛岡市、花巻市、北上市、釜石市）から大学へ職員を派遣。自治体職員は地域連携推進機構に所属。⇒大学が持つ人的・知的財産を活用し、地域資源を活かした新産業創出や地域企業への技術支援。共同研究員による車座研究会（地元企業＋大学＋行政機関）。

人件費は派遣元負担。共同研究費（42 万円／年）＋調査費は大学に納められる。地方自治体との共同研究数は、全国公私立大学中第 2 位（平成 18 年度）。

○三陸復興推進連携拠点の設置

COC 事業先行事例視察報告書（第 2 回 岩手大学）

【業務内容】被災地からの支援ニーズの収集、岩手大学のシーズの被災地への情報提供とマッチング、沿岸自治体・企業・事業者・団体・グループ等との連携調整、大学による支援活動の企画立案・復興プロジェクトの推進

- 釜石サテライト（岩手大学三陸水産研究センター含む）
- 久慈エクステンションセンター（久慈市役所 総合政策部産業開発課内）
- 宮古エクステンションセンター（宮古市役所分庁舎 宮古市産業支援センター内）
- 大船渡エクステンションセンター（大船渡市役所 商工港湾部内）

